

「教育臨床総合研究 8 2009研究」

平成20年度の基礎体験領域の取り組みについて

A Report of practices of the "Basic Experience Area" in 2009

池山圭吾*

Keigo IKEYAMA

福間敏之*

Toshiyuki FUKUMA

高須佳奈*

Kana TAKASU

長澤郁夫*

Ikuo NAGASAWA

青山巧*

Takumi AOYAMA

小川巖**

Iwao OGAWA

要旨

島根大学教育学部の教員養成カリキュラムである「1000時間体験学修」を実施してから5年が経過し、3月には1000時間体験学修を修了した2期目の卒業生を送り出すことができた。

ここでは、基礎体験領域における5年間の取り組みの経緯（改善点）と、平成20年度の基礎体験領域の取り組みの概要と成果について報告する。

〔キーワード〕 1000時間体験学修，基礎体験領域，成果と課題

はじめに

「1000時間体験学修」は、1,000時間に及ぶ体験学修を卒業要件として必修化した教育課程であり、学生が大学外で体験活動を行う「基礎体験」、附属学校園において教育実習を行う「学校教育体験」、学部でのコア講義・実習を中心とする「臨床・カウンセリング体験」の、3つの体験領域から構成されている。

特に「基礎体験」は、地域の学校・社会教育施設・NPO等の団体（事業主）からの、多数の学習支援や活動補助等の募集を受けており、学生は活動で得られる学びを吟味した上で選択し、自分自身のスキルアップに励んでいる。このプログラムは、単なる社会経験やボランティア活動の集積ではなく、これからの教師に求められる豊かな社会性や人間関係力を身につけさせるとともに、教育的実践力を培うことをめざして実施しているものである。

基礎体験活動を通して身につけさせたい資質・能力として6つの力（子ども理解，人間関係力，社会の一員としての自覚，企画力，指導力，学校理解）を設定しており，評価の具体的観点にもしている。各活動の事後指導や各基礎セミナーの振り返りの際には，これらの観点をもとに自己評価をさせている。

*島根大学教育学部附属教育支援センター専任基礎体験領域担当

**島根大学教育学部附属教育支援センター長（心理・発達臨床講座）

I 基礎体験領域における取り組みの経緯

まず、1000時間体験学修がスタートした平成16年度から平成20年度までの、5年間の基礎体験領域における取り組みの経緯を下の表にまとめた。

表1 5年間の基礎体験領域における取り組みの経緯と改善点

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
事業所との連絡協議会	—	—	○	◎改善	◎
実習セメスター学外教育体験	—	—	○	○	○
ビビットひろば	—	○	○	○	○
事前・事後指導の実施	—	—	○	○	◎改善
各学年の基礎セミナー実施	—	—	○	○	◎改善
だんだん塾講演会(サポート・マイスター講演会)	—	—	○	○	○
基礎体験活動記録票	○	○	◎改善	◎	◎
入門期セミナー I	△(試行)	○	◎改善	◎	◎
基礎体験合同説明会	—	—	○	○	○
実習セメスター説明会	—	—	○	○	○
社会教育施設との意見交換会	—	—	—	—	○
学内資格認定(3資格)	—	—	—	—	○
卒業生及び就職先への聞き取り調査					△(試行)
専任教員数	2名	4名 ^{*1}	4名	4名	5名 ^{*2}

(注) ※1 1名は鳥取県から ※2 1名は特任教員

基礎体験領域におけるこれらの取り組みを、体験学修の量の確保、質の向上、ガイダンス機能の3つの視点から分類しまとめると次のようになる。

1. 基礎体験学修の場と体験時間(量)の確保
 - ・各事業所との連絡協議会
 - ・各学年の基礎セミナーでの体験時間数の把握と自己分析
 - ・ビビットひろばでの学内体験の場の確保
2. 基礎体験学修の質の向上
 - ・事前指導・事後指導
 - ・各学年での基礎セミナー
 - ・入門期セミナー I, ビビットひろば, オープンキャンパスへの学生参画
 - ・だんだん塾講演会
 - ・社会教育施設との意見交換会
 - ・学内資格認定制度
 - ・卒業生及び就職先への聞き取り調査

3. 基礎体験学修のガイダンス機能

- ・入門期セミナー I (1年生対象)
- ・基礎体験合同説明会 (1年生対象)
- ・実習 Semester 説明会 (3年生対象)

II 平成20年度の取り組み

《末尾に資料として「平成20年度基礎体験領域における年間活動実施一覧表」を掲載》

1. 基礎体験活動

(1) 基礎体験活動への参加実績

今年度は、延べ1898名の学生が、島根県・鳥取県内の338の活動の場で体験学修を行った。基礎体験活動も5年目を迎え受入団体も定着してきており、各種学校での学習支援や部活動支援、地域行事や社会教育施設での活動支援などの多様な活動の中から、選択して取り組めるようになってきている。

《基礎体験活動への参加実績》

	H19実績	H20実績
事業所数	225	226
募集活動数	396	451
参加活動数	341	338
参加延べ人数	2012	1898



基礎体験活動には「出雲ウイークエンドスクール」や「松江市サタデースクール」等の、土曜日を利用した基礎学力向上事業での支援活動も含まれており、現場の教師との連携の下に多くの学生が地域の子どもの教育実践に参加している。

《土曜日を利用した学力向上事業への参加実績》

	H19実績	H20実績
出雲ウイークエンドスクール	25人	32人
松江市サタデースクール	95人	105人
合計	120人	137人

(2) だんだん塾 (事前・事後指導)

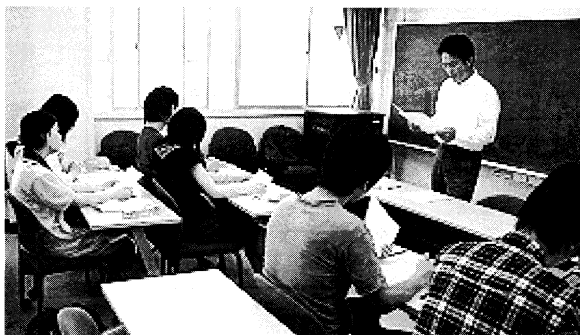
体験活動を行う際には、必ず事前・事後指導を行っている。事前指導では、活動内容の確認をするだけでなく、活動を通して何を学びたいか、どんな力をつけたいかなどの目的意識を明確にさせている。また、活動後の事後指導では、活動の振り返りを通して自分の成長を確認したり、他の参加者と学びの共有化を図ったりすることにより、体験学修の有意感を持たせるように努めている。

【事後指導オフィスアワー】

今年度後期より、事後指導におけるオフィスアワーを実施した。事後指導は参加者全員で行うこととしているが、都合により欠席した学生には後日個別に行っている。個別指導は学生の活動実態や思いをもとに学びを深く追求することができるが、他者の学びを共有するなどの価値の広がりや得にくい面がある。そこで、毎週火曜日（17：30～18：00～）を事後指導オフィスアワーとし、全体の事後指導に参加できなかった学生が自由に参加できる場とした。活動が異なる参加者が一緒に事後指導を行うことにより他の活動の学びを知り、それぞれの活動が持つ教育的価値を共有し合うことができた。また、個別の事後指導を数名で行うため、結果として事後指導の効率化にもつながった。

(3) だんだん塾講演会（サポート・マイスター講演会）

教師になるための自覚を高める講演会として、今年度は4回実施した。第1回から3回は、教員採用試験を目指す4年生を対象とし、今の教育現場ではどのような教師が求められているか、教師としての心がまえや最近の教育の諸問題等について、地域の専門家として学校教育に参画していただいているサポート・マイスターの先生を中心に講演していただいた。学生達は目前に迫った教員採用試験への対策とからめながら真剣に聞き入っていた。また、4回目は全学年を対象として、科学リテラシーの向上をテーマに講演を行った。2，3年生が多く、科学リテラシーについての講話や科学実験を通して、教職志向を高めたようであった。



回数	月日	講演者	講演テーマ
第1回	6月13日 (金)	奥出雲町立八川小学校 斎藤 英明 教頭	「学校現場で行われている個別支援について」 ～一人の教師としてできること、 学校という組織でできること～
第2回	6月25日 (水)	奥出雲町立横田小学校 安部 隆 校長	「今、学校教育で求められる先生とは」
第3回	7月1日 (火)	安来市立伯太中学校 長岡 素巳 校長	「これからの教師に求められる力」 ～一人一人の教師に求められる力と、 これからの学校教育～
第4回	1月21日 (水)	法政大学生命科学部 左巻 健男 教授	「自身、ある？」 ～今を生き抜く科学リテラシー～

(4) 専任教員による日常相談活動

学生からの要望で、不定期ではあるが次のような日常相談活動を行った。

- 1) 基礎体験活動における個別相談
- 2) 生活面での個別相談
- 3) 教員採用試験に向けての願書添削や面接指導, 実技指導

2. 基礎体験セミナー

基礎体験セミナーは、各学年での1年間の基礎体験活動を振り返っての自己分析や、体験発表や情報交換を通して学びを共有することをねらいとして行っている。

(1) 入門期セミナー I (1年生対象)

日時	平成20年4月26日(土)～27日(日) 島根県立青少年の家 サンレイク
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・教育体験活動「1000時間体験学修」の全体像を把握し、4年間の大学生活の見通しを待たせるとともに、教育学部生としての自覚を促す。 ・これから学生生活を共にする同級生やサポーターとして参加する先輩との交流を深め、今後展開される教育体験活動におけるの仲間意識を培う。

体験活動の実際や大学生としてのマナー等の研修は学生スタッフが主体となり、劇を交えた体験発表やグループ対談などを行った。新入生の中には自分もこんな先輩になりたいと思った者も多く、学生スタッフ自身も、大勢の前で堂々と話をしている自分自身の変容や成長を強く感じていた。

(2) 1・2年生交流セミナー (1・2年生対象)

日時	平成21年2月29日 13:00～16:00 20番・35番教室
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎体験で取り組んだ今年度の活動実績の確認をするとともに、それらの振り返りを通して自己内省を促す。 ・他学年の学生との体験活動の情報交換を通して、自分が体験していない活動で得られる学びの共有化をすると共に、今後の体験活動への意欲化を図る。

体験発表、体験活動の分析を行った後、1・2年生合同の小グループを作り情報交換会を行った。2年生のグループリーダーに事前指導を行い、話合いの視点を明確にしたことにより活発な情報交換の場となり、体験活動での多様な学びを共有し実践意欲の向上につながった。また、1年生にとっては先輩に相談できる貴重な場であり、今抱えている悩みや課題を積極的に述べていた。



(3) 充実期セミナー（2年生対象）

日時	平成20年9月29日 13:00～14:30 20番教室
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末の基礎セミナーを踏まえて、その後取り組んできた基礎体験活動を振り返る。 ・基礎体験領域でねらう資質・能力の視点から、これまで取り組んできた活動のデータを分析し、各自の成果と課題を明らかにする。

代表者3名による体験発表を聞き自分自身の活動状況を分析することで、今後の基礎体験活動に対する見通しをもつことにつながった。体験活動にあまり参加していない学生にとっても、代表者の発表はそれぞれに共感できる部分が多くあり、体験活動に対する意識改革につながったようであった。

(4) 応用期セミナー（3年生対象）

日時	平成20年12月5日 12:45～16:30 大学会館3F 大集会室
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・実習セメスターにおける体験活動の実際をふまえ、一人ひとりがこれまでの体験時間を確認し基礎体験活動に対する成果と課題を明らかにする。 ・実習セメスター及び教育実習での活動を振り返り、今後の大学生活を展望すると共に、進路決定に向けての自己啓発を促す。

実習セメスターと学校教育実習Ⅳの往還をテーマとして、6名の学生が多種多様な体験発表を行った。体験発表後は、発表した学生に学校教育体験担当者と基礎体験担当者の2名の教員を加えてパネルディスカッションと、臨床カウンセリングの視点からの調査項目を入れた基礎体験アンケートを実施した。3領域での学びが教師としての資質・能力の向上に繋がっていることを意識づけさせた上で、実習セメスターと教育実習を行うことの相乗効果や、実習セメスターの進路決定への影響などについての思いを共有し合った。

(5) 発展期セミナー（4年生対象）

日時	平成20年12月3日 15:00～16:00 教養棟2号館504教室
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・1000時間体験学修における基礎体験領域での学びを総括し、一人一人がこれまでの体験時間を確認し、基礎体験活動の成果と影響度を明らかにする。

4年間の総括としてこれまでに行った様々な体験活動を振り返ることにより、活動を通して身に付けた資質や能力を再確認できたようであった。また、4年間取り組んだ体験活動が、自分自身の生き方や進路決定に大きく影響していることに気付く契機にもなり、基礎体験活動の有意義感をさらに高めたようである。

3. 島大ビビットひろば

(1) 活動のねらい

松江市内を中心とした子ども達に安心して安全な週末の活動拠点を提供するとともに、学生が子どもたちに組織的、継続的に関わる機会を確保し、学生が自ら企画・実践・評価の一連の教育活動を体験し、実践力を高める場とする。さらに、各講座の専門性を地域教育活動の場で発揮する機会を確保する。また、専攻別体験の場として、各専攻の専門性の向上や、学内認定資格取得にも関わる活動の場を提供した。



(2) 実施時期と活動内容

前 期	実施日時・参加者数・実施講座名
第1回	平成20年7月29日(土) 9:30~12:00 参加者163名 開催講座【教育支援センター・英語・自然環境・健康スポーツ・ものづくり教育センター】
出 前 ビビット	平成20年8月2日(土), 3日(日) 9:30~16:00 ○出雲科学館の「科学の祭典」に出展
第2回	平成20年8月23日(土) 9:30~12:00 参加者102名 開催講座【教育支援センター・健康スポーツ・ものづくり教育センター】
後 期	実施日時・参加者数・実施講座名
第1回	平成20年11月19日(土) 9:30~12:00 参加者111名 開催講座【教育支援センター・健康スポーツ・英語・ものづくり教育センター】
第2回	平成20年12月20日(土) 9:30~12:00 参加者125名 開催講座【教育支援センター・英語・自然環境・健康スポーツ・ものづくり教育センター】
第3回	平成21年1月20日(土) 9:30~12:00 参加者105名 開催講座【教育支援センター・健康スポーツ・ものづくり教育センター】

4. 各事業所との連携

1年生の基礎体験学修をできるだけ早くスタートが切れるように、基礎体験合同説明会と基礎体験学修連絡協議会を4月中に実施した。基礎体験学修連絡協議会は2月にも行い、活動内容別のグループ協議会をもとに1年間の振り返りを行った。また、今年度は社会教育施設とも意見交換会を行い、今後の活動の在り方について話し合った。

(1) 第1回 基礎体験合同説明会及び基礎体験学修連絡協議会

《平成20年4月30日(水)》

合同説明会 (14:30~15:30)	場 所：大学会館3F大集会室 参加者：1年生175名，36事業所51名
連絡協議会 (15:45~17:00)	場 所：ホール及び2階第3集会室 参加者：43事業所61名，支援センター7名

基礎体験合同説明会は、受け入れ事業所に来ていただき、今年度予定されている活動内容等について、ポスターセッション方式で説明していただいた。1年生はそれぞれの活動の説明に興味深く耳を傾けるとともに積極的に質問を行っており、活動への期待とやる気を感じられた。



基礎体験学修連絡協議会では、昨年度のアンケート結果をふまえ、1000時間体験学修のねらいである、豊かな人間性と実践的な指導力育成に向けての取り組み方針や、基礎体験活動の流れについて説明し、双方にとって有意義な体験活動にするための共通理解を図った。

(2) 第2回 基礎体験学修連絡協議会

《平成21年2月6日(金)》

連絡協議会 (15:00~17:00)	場 所：学校教育体験演習室1 参加者：38事業所45名，支援センター7名
------------------------	-----------------------------------------

第2回基礎体験学修連絡協議会では、今年度の活動報告並びに卒業生の学校現場での評価等について説明を行った。その後のグループ別協議会(5グループ)では、それぞれのフィールドでの学生の活動状況をもとに積極的に意見交換がなされた。学生の目的意識の持たせ方、緊急時の対応の仕方、効果的な学びに繋げる広報の仕方など、今後の取り組みに対する重要な提案が多く出された。



(3) 社会教育施設との意見交換会

《平成20年12月11日 (水)》

意見交換会 (14:30～17:00)	場 所：教育学部セミナー室 参加者：4施設7名，支援センター6名
------------------------	-------------------------------------

島根県・鳥取県内の社会教育施設とのより一層の連携・協力を深め，双方の事業をよりよく推進していくために，今年度は意見交換会を行った。各施設からの成果や課題についてのアンケートや各施設の活動に中心的に参加している学生からの聞き取りを事前に行った上で実施し，施設・学生・教育支援センターの三者の思いが反映されるようにした。そして，現状における学生の参加・参画による成果と課題を検証するとともに，自然体験を重視した長期集団宿泊活動への対応を考慮した，今後の活動の方向性を確認し合った。

(4) 受け入れ先事業所からのアンケート

今年度も，基礎体験学修の受け入れをしていただいた事業所へのアンケートを実施した。年間を通じて継続する活動や長期間にわたる活動を受け入れてくださった事業所を対象に依頼し，48件の回答を頂いた。

調査内容は，昨年度までの内容に新たに3つの視点を加え，下記の6項目とした。

- 1) 学生は体験活動へ積極的に取り組んでいるか。
- 2) 学生を受け入れるに当たり，どのようなお考えを持たれているか。
- 3) 活動における危機管理や安全管理を，参加学生へどのように適応されているか。
- 4) 貴団体から学生へ指導する上でお気づきのこと。
- 5) 今後，継続して取り組む上での要望。
- 6) 学生を受け入れるにあたり，特に配慮されていること。

アンケート結果からは，積極的に取り組んでいる学生が多く，事業所は概ね満足していただいているようである。また，教育支援センターとの手続きや連絡調整についても理解をいただき，大きなトラブルもなくスムーズな連携が取れたようである。しかし，学生の学びの姿勢や大学の対応において，改善を要することや新たに配慮を要すること等の指摘もいただき，今後も安全かつ円滑で，学びの多い体験活動にするためにさらなる工夫改善をしていく必要性を感じた。

《工夫改善を要する内容》

- 学生の体験学修への意識には個人差も大きく，単に時間確保のために参加しているのではないかと感じられる目的意識のない学生がいた。
- 指導者として適切な服装，接客に適した身だしなみに気を付けてほしい。また，髪の色も気になった。
- 学生との連絡手段は主としてメールを利用しているが，返信に数日かかり，電話をしても繋がらず困った。また，連絡後の受信確認の返信がなく不安を感じた。

○活動後の学生の学びの内容や活動への要望等が知りたいので、事後指導の結果を教えてください。

○1年生対象の合同説明会はあるが、全学年対象に説明できる機会を設けてもらえるとありがたい。

○子どもについての個人情報が分かってしまうので、守秘義務の徹底を継続していきたいと思うが、大学での指導もお願いしたい。

5. 実習セメスター

3年後期の実習セメスターを利用した学外教育体験学修も3年目を迎えた。今年度は76の幼稚園や小中学校、養護学校から募集があり、50の学校園に延べ162名の学生が出向き学習支援活動を行った。教育支援センターでは、今年度より体験の構造化をかけた、特に1、2年生にはコミュニケーション力等を高める意味で地域や子どもを対象にした活動、3年生には教職に就くことを前提にして学校現場での学習支援活動に参加するよう呼びかけてきた。今年度はセメスター参加者が増加しているが、このような呼びかけにより、これまで地域や子どもの活動に参加していた3年生が、学校での学習支援活動へ意欲的に参加したものと考えられる。

参加した学生は、事後指導において子ども理解や学校理解、指導力等の多様な学びを見いだせたと述べており、セメスター終了後も学習支援を継続している学生も少なくない。受け入れ先の学校園からも、この実習セメスター体験は学生にとっても学校にとっても有意義な体験活動であると評価をいただいている。3年間の実習セメスター参加実績を示す。

《平成20年度 実習セメスター実績》

	募集校	参加校	参加活動数	参加人数
鳥取県	13	12	12	21
島根県	63	38	50	141
その他	0	0	0	0
全 体	76	50	62	162

＜参考：平成19年度実績＞

	募集校	参加校	参加活動数	参加人数
鳥取県	14	8	8	19
島根県	39	27	37	107
その他	1	1	1	1
全 体	54	36	46	127

＜参考：平成18年度実績＞

	参加校	参加活動数	参加人数
鳥取県	14	13	30
島根県	20	29	126
その他	0	0	0
全 体	34	42	156

6. 学内資格認定制度

進化する1000時間体験学修として、今年度「学内資格認定制度」の創設を行った。教育支援センターにおいても、「体験学修ピア・サポーター」「学校教育サポーター」「コミュニティサビス・サポーター」の3つの資格を設定した。

(1) 体験学修ピア・サポーター

主な役割	基礎体験諸活動における同輩等へのアドバイスや支援（ピア・サポート） 基礎セミナー等の企画・運営 オープンキャンパス等における1000時間体験学修の説明や体験発表等
認定基準	1. 基礎体験活動において累計時間が300時間以上あり、体験フィールドが「地域・学校」「子ども」の領域にわたり多様な経験をしていること。 2. 臨床カウンセリング体験領域において、体験活動（C系G系）へのかかわりが積極的であり、コア授業において優秀な成績を修めていること。 3. 基礎体験活動の事後指導において、人間関係力、指導力などについて高い学修成果が認められていること。
認定時期	2年生及び3年生終了時に審査し、それぞれの年度当初に資格付与する

(2) 学校教育サポーター

主な役割	学校の教育活動支援及び後輩へのアドバイス 「学校教育実践研究Ⅰ・Ⅱ」の授業サポート、「基礎セミナー」のアドバイザー
認定基準	1. 基礎体験活動において、特に体験フィールド「学校」の累計時間が150時間以上であること。 2. 臨床カウンセリング体験領域において、体験活動（C系G系）へのかかわりが積極的であり、コア授業において優秀な成績を修めていること。 3. 教育実習において良好な成績を修めていること。 4. 基礎体験活動の事後指導において、学校理解・子ども理解・指導力などについて高い学修成果が認められ、かつ、各学校において優れた指導力を発揮し、顕著な功績があったと評価されていること。
認定時期	3年生終了時に審査し、4年生当初に資格付与する

(3) コミュニティサービス・サポーター

主な役割	社会教育施設及び社会教育各種団体での企画・運営・実施 島大ビビットひろばでの企画・運営・実施 オープンキャンパスや学生交流会等での、1000時間体験学修の説明や体験発表等
認定基準	1. 基礎体験活動において、特に体験フィールド「地域」「子ども」の累計時間が350時間以上であり、多様な体験をしていること。 2. 1の活動の中に、教育支援センターが定める活動（下表参照）に3つ以上参加していること。 3. 臨床カウンセリング体験領域において、体験活動（C系G系）へのかかわりが積極的であり、コア授業において優秀な成績を修めていること。 4. 基礎体験活動の事後指導において、企画力、人間関係力、社会の一員としての自覚などについて、高い学修成果が認められていること。
認定時期	2年生及び3年生終了時に審査し、それぞれの年度当初に資格付与する

《認定対象となる養成講座及び活動一覧》

主催者	活動名	備考
国立 三瓶青少年交流の家	ボランティア活動入門セミナー	養成
	さんべ夢ステージ①企画力・運営力アップセミナー編	養成
	さんべ夢ステージ②ドンドン企画がカタチになる編	養成
	さんべ夢ステージ③企画・運営本番編	養成・実践
	SANBE winter meeting	養成・実践
	学校長期自然体験活動指導者養成研修会	養成
島根県立青少年の家	青少年活動支援者養成講座（基礎編）	養成
	青少年活動支援者養成講座（コミュニケーション編）	養成
	青少年活動支援者養成講座（企画力運営力編）	養成・実践
鳥取県立 船上山少年自然の家	スキルアップセミナー①	養成
	スキルアップセミナー②	養成
	ちっちゃい探検隊（スキルアップセミナー③）	養成・実践
	キッズアドベンチャー	養成・実践
鳥取県立 大山青年の家	はじめての冒険（夏・秋）	実践
	はじめての冒険・低学年	実践
	大山わくわく探検隊	実践
教育支援センター	島大ビビットひろば学生スタッフ	養成・実践

これらの資格は、それぞれの認定基準をもとに学生自身が自己評価し、基準に達していると判断した者が自己申告するものとする。学生の申告に対して、教育支援センターの教員が認定基準に従って審査し合議のもとに認定する。今年度は資格の設定を行い、3つの資格を学生に周知したところであり、現段階では資格認定者はいない。来年度からの申告学生に対して審査し、資格を認定していく予定である。

Ⅲ 平成20年度の成果と課題

1. 成果

(1) 1000時間体験学修の達成

今年度も、卒業要件を満たす単位を取得した学生は全員が1,000時間の体験学修を達成し、「1000時間体験学修認定証」を授与した。1000時間体験学修を実施し2期目の卒業生を送りだしたことになるが、1,000時間の体験という量的なハードルも、4年間の学業期間において十分達成可能な量（平均：1,185時間、最低：1,001時間、最大：2,830時間）であることが再度確認できた。

事後指導や基礎体験アンケートの考察より、学生にとって1000時間体験は単に卒業要件を満たすだけでなく、様々な体験活動を通して自分自身を客観的に見つめ直す契機となったり、将来への進路決定を大きく左右したりするなど、自己の在り方や生き方などを示唆する存在でもあったようである。また、4月から教師として教壇に立つにあたり、大きな自信となっていることが、発展期セミナーにおけるアンケートからも認められた。

(2) 体験活動の質の向上

受け入れ先事業所の理解と協力のもと、体験活動先も定着し量的充実はなされてきた。今年度は、体験活動の質の向上に重点を置き、事前・事後指導や各基礎セミナーの充実、社会教育施設との意見交換会の実施などに取り組んだ。また、入門期セミナーⅠ、ビビットひろばへの積極的な学生参画を行い、子ども理解、人間関係力の育成に留まらず、企画力、指導力の育成に努めた。学生達は企画・運営に対する関心が高く、試行錯誤を繰り返しながらも意欲的に取り組んでいた。また、先輩が熱心に取り組む姿が与える影響は大きく「自分も先輩のようになりたい」など、下回生のよい刺激にもなっていた。

(3) 実習semesterでの学外教育体験学修と教育実習との往還関係

3年生後期の実習semesterでの学外教育体験学修は、附属学校園で行う4週間の教育実習Ⅳと組み合わせることにより、補完的、往還的なメリットが生まれている。附属学校園で教科指導を中心に行う教育実習と、公立学校において学校生活全般にわたる支援活動を行う学外教育体験学修を体験することにより相乗的な効果をもたらし、子ども理解や学校理解はもとより、児童生徒からは見えない教師の仕事ややりがいに気付き教職志向を高めた学生も多かった。また、実習とは異なる校種での支援活動を行った学生も多くいたが、そこで新たに異校種での教師の魅力を痛感し希望校種を変更するなど、進路決定にも大きな影響を与えている。

2. 課題

(1) 基礎体験の学修成果の検証

基礎体験学修も5年が経過し、基礎体験学修の効果について具体的に明らかにしていく必要がある。そのためには、事前・事後指導において学びの視点を今以上に明確にして指導し評価すること、体験先事業所との連絡会のもち方やアンケート内容を吟味し外部評価を整理すること等が必要である。また、基礎体験学修を修了した卒業生の就職状況からの評価も大きな意味を持つと推察される。今年度は、附属学校と県外公立学校に採用された卒業生5名の学校の管理職より、教師の資質・能力についての聞き取り調査を行い、基礎体験学修の取り組みの一定の評価をいただいた。今後も卒業生の聞き取り調査を積極的に行い、基礎体験学修の学びを検証し成果を明らかにしていきたい。

(2) 学内資格認定制度の活用

今年度、教育支援センターより3つの資格を設定し、来年度より資格認定者を輩出することとなる。資格認定者は、それぞれの領域の活動に関して高い指導力の持ち主であり、効率よく活動に参加させることにより、学生全体の質の向上に繋がっていくと考えられる。しかし、資格取得の価値が学生相互に認められることが不可欠であり、教育支援センターでの活動の見直しを始め受け入れ事業先との連携を強化し、資格認定者が幅広く活躍できる場を確保するとともに、体制を構築していく必要がある。

(3) 専攻別体験との連携

専攻別体験は、各専攻の特色に根ざした活動であり、各専攻の専門性を深化させるための教育体験活動として基礎体験活動の中に位置づけられている。ビビットひろばでの専門性を生かした体験活動や各講座で提供される専攻別体験によって、教科等の専門性を体験学修の中に連動させているが、今後も各講座との連携を密にして、専門性が生かせる教師の育成を目指し活動を充実させていく必要がある。

(資料)

平成 20 年度 基礎体験領域における年間活動実施一覧表

附属教育支援センター

		活動名	対象	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
学 内	基礎体験セミナー	1年	入門期 セミナーⅠ 基礎体験 合同説明会	入門期 セミナーⅡ										1,2年生交流 セミナー		
		2年						充実期 セミナー						1,2年生交流 セミナー		
		3年										応用期 セミナー				
		4年										発展期 セミナー				
	だんだん塾 (サポート・マイスター講演会)	共通		斎藤 英明・ 安部 隆 先生講演	長岡 素巳 先生講演									左巻 健男 先生講演		
		← 専任教員による学生支援活動 (①基礎体験学修の事前事後指導 ②日常的な相談活動 ③教採にむけての面接指導等) →														
	島大ビビット広場	共通					第1回	出前ビビット 第2回				第3回	第4回	第5回		
専攻別体験学修	専攻 学生	← 教育学部の各講座の専門性を生かした、講座主催による年間を通した体験プログラムの実施 →														
学 外	民間 団体	共通	キャンプ、ジュニアリーダー養成研修、レクリエーション指導者養成、週末子ども体験事業 他													
	三瓶青少年交流の家		共同調査研究事業、研修事業及び施設ボランティア													
	島根県		適応指導教室、県立特殊教育諸学校の学習支援、定時制高校の学習支援、青少年教育施設での研修及び施設ボランティア 他													
	鳥取県		適応指導教室、県立特殊教育諸学校の学習支援、青少年教育施設での研修及び施設ボランティア 他													
	島根県松江市		サタデースクール、子どもの居場所づくり事業 他													
	出雲市		← 実習セメスター教育体験活動 → 小中学校学習支援、サタデースクール													
	安来市		← 実習セメスター教育体験活動 → ウィーエンドスクール													
	江津市		← 実習セメスター教育体験活動 → 週末子ども体験活動、通学合宿													
	雲南市		← 実習セメスター教育体験活動 →													
	東出雲町		放課後学習チューター、加茂の祭り 他													
	幼権園体験 他		← 実習セメスター教育体験活動 → 教育研究会参加													
	奥出雲町		← 実習セメスター教育体験活動 →													
	飯南町		← 実習セメスター教育体験活動 →													
	斐川町	共通	夏のキャンプ													
	川本町															
	美郷町															
	海士町		← 実習セメスター教育体験活動 →													
	鳥取県米子市		← 実習セメスター教育体験活動 → 小中学校学習支援													
	境港市		← 実習セメスター教育体験活動 → 小中学校学習支援													
	伯耆町		← 実習セメスター教育体験活動 →													
南部町		← 実習セメスター教育体験活動 →														
日吉津村																
大山町		通学合宿														
他	島根県浜田市		キャンプ													
	隠岐の島町		心に悩みをもつ子どものキャンプ													

平成20年度の基礎体験領域の取り組みについて

P 21～35 (2009)